

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

大学院学生研究

2017年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	社会学	研究科	社会学	専攻
研究代表者 (2018年3月現在のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	社会学研究科・社会学専攻 博士後期課程2年		笹川 貴吏子 印		
指導教員	所属・職名		氏名		
	社会学部・教授		阿部 治 印		
自然・人文・社会の別	自然	・	人文	・	<input checked="" type="checkbox"/> 社会
			個人・共同の別	<input checked="" type="checkbox"/> 個人	・ 共同 名
研究課題	日本の農山村における持続可能な地域づくりに関する研究： 外部者の変容過程を事例に				
研究組織 (研究代表者・共同研究者) ※2018年3月現在のものを記入	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	社会学研究科・社会学専攻 博士後期課程2年		笹川 貴吏子		
研究期間	2017 年度				
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 149,988 円 / (採択金額) 150,000 円				

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

今日、日本においては少子高齢化や人口減少によって様々な問題が発生しており、農山村に与える影響は極めて顕著である。「人」、「土地」、「むら」の3つの空洞化で表現される農山村が抱える問題の一方、東京をはじめとする大都市では一極集中が起こるなど、今では地方も都市も共にアンバランスな状態に置かれている。このことは、農山村の過疎と都市の過密は表裏一体であり、農山村の問題は都市との関係性の中で生じていることを物語っていると同時に、地域外の人々もまた、農山村の問題を自分事として受け止めていくことの必要性を示しているといえる。本研究では、日本の農山村(離島や漁村も含む)での地域づくりを「関係性」の視座から再考するとともに、地域づくりに携わる外部者の変容過程から、現行の地域づくりに新たな視座を提供することを試みる。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 地域づくり } { 外部者 } { ESD }

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**1. 問題意識**

現在、我が国の人口減少に伴う問題は極めて顕著であり、農山村を起点として生じる問題に取り組むべく、2014年9月、内閣官房に「まち・ひと・しごと創生本部」が発足された。しかし、上述したような政府が唱える地域づくりを紐解いてみると、その内容はこれまでと同様の、都市と農山村の経済格差を広げるような政府主導型の政策となっていることが窺える。以上の背景に鑑みると、今日の地域づくりにおいては、地域住民の声やニーズを基に住民自らが主体となって行う地域づくりの必要性がこれまで以上に求められていると言えるが、そのような地域づくりについては、それがいかに内発的なものであっても、外部者の存在が必要不可欠であるという指摘がなされている。

また、農山村の過疎と都市の過密は表裏一体であり、農山村の問題はひとつの閉じられた地域の中でのみ起きているのではなく、都市との関係性の中で生じていることから、地域づくりに携わる外部者を地域の内発性を引き出すための機能的な役割としてみなすのではなく、農山村の問題を自分事として受け止めていく当事者として捉えていくことが重要といえる。これらを踏まえ、本研究では、農山村の問題を「関係性」という視点から捉えるとともに、地域づくりに携わる外部者の変容に着目し、彼らの変容過程を明らかにすることで、今日の地域づくりに有効な視座を提供することを目的としている。

2. 先行研究**地元学における地域づくり**

地域づくりの代表的な手法である地元学においては、地域住民を「土の人」、外部者を「風の人」とし、両者の相互行為を通して地域住民がその地域固有の価値を再認識していくことの重要性が説かれている。上述したように、先行研究では、地域住民だけでなく外部者の関りの重要性が唱えられている。しかしながら、現在の地域づくりの文脈においては、外部者は依然として客体化されたままである。

地域づくりにおける外部者

本研究のテーマとなる地域づくりにおける外部者に関する研究については、開発社会学者であるアジア経済研究所の佐藤寛氏によるアプローチがもっとも注目し値する。佐藤氏は、著書の『開発援助の社会学』の中で、途上国の開発援助に携わっている外部者に着目して研究を行っている。佐藤氏が、研究において援助現象を扱う際にその前提においているのは、「援助行為とは外部者による介入にほかならない」という点である。そして、それゆえに、開発援助において社会的文化的諸問題が重要となり、それらに対処するためにも社会学的把握が必要であることを指摘している。

今日、政府の実施する「地方創生」の追い風も受け、日本の農山村の抱える課題が我が国の主要課題として認識されつつあり、各地で様々な取り組みがなされている。しかしながら、依然として日本の地域づくりの分野においては、地域づくりにおける外部者に関する研究は少なく、研究が実践と結びついていない。本研究では国外の地域づくりのような、他分野の先行研究も取り入れることで、現行の地域づくり研究へのアプローチを試みた。

地域づくりにおける学び：ESD（持続可能な開発のための教育）の観点から

また、本研究では、地域づくりに携わる外部者の変容を「教育」の観点からの考察を試みた。立教大学では2007年に、指導教員でもある阿部治教授がセンター長をつとめる、ESD研究センター（現・ESD研究所）が開設された。同研究所では、ESD教育システムの具体的研究と教育企画および、国内外のネットワークや産公学連携を強化しながらESDの実践研究を行うなど、ESDを実質的に機能させる「人づくり」および「地域づくり」に取り組んでいる。

研究成果の概要 つづき

2016年3月には、シンポジウム「ESD×地域創生—地域創生に果たす人づくりの役割—」が実施され、地元学の視点からの講演や各地の事例報告をふまえ、ESDによる地域創生の可能性と、その軸にある「人づくり」の意義について考えを深める機会ともなった。本シンポジウムの詳細については、同研究所より刊行された『ESDの地域創生力』でも紹介されている。ここで語られた内容は、政府が実施する現行の「地方創生」に欠如している「人づくり」の重要性について語っている点において、本研究と関連する。

3. 調査方法

本研究では、上述した先行研究をさらに掘り下げるべく、開発社会学や環境社会学、環境教育・ESDに関する文献調査を実施した。先行研究の中で、地元学の生まれた熊本県水俣市は、現在においても地域づくりやESD研究の領域において先進事例として注目されていることが明らかになった。同市では、星槎大学と一般財団法人水俣病センター 想思社主催の研修会、「水俣の地から考える持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）」が、毎年7月下旬に実施されている。そこで、実際に研修へ参加するとともに、その前後でも市内にてフィールドワークを行った。研修は、教員免許更新講習も兼ねたものであるが、調査者は聴講生として参加させていただいた。

研修会の概要は以下の通りである。

- ・ 研修会名：「水俣の地から考える持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）」
- ・ 日時：2017年7月28日～7月30日
- ・ 場所：熊本県水俣市（水俣市公民館、相思社関連施設など）
- ・ 概要：「持続可能な開発のための教育」に関する資質能力は、教諭・養護教諭・栄養教諭に必要とされる。水俣では工場排水に由来する有機水銀を原因とする水俣病が発生し、その身体の影響や患者さんの心のケアも重要であり、また、安全で健やかな心身を育む食のあり方も含めた地域づくりを学ぶことができる。本講習は、水俣でのフィールドワークや水俣病の患者さんや支援者、水俣での地域づくりのキーパーソンの声を通じて、環境学習を含めた多様なESDの学び方である問題解決能力を育成し、具体的な行動に結びつく実践的な授業を立案する。
- ・ 行程：1日目 オリエンテーション、講義1、講義2、グループワーク、講和1、グループワーク、今日のまとめ
2日目 フィールドワーク、グループワーク、講和2、授業案準備
3日目 導入、議論・課題の整理、授業案作成・仕上げ、授業案の発表、試験

4. 研究成果

本研修会への参加をきっかけに、現地の方へインタビューをさせていただくことができただけでなく、参加者間でのつながりが生まれ、2018年1月に京都で開催された「環境と対話」研究会においても、自身の研究を発表する機会をいただいた。今後は、同研究会での内容を加筆修正し、学会誌への投稿を行いたい。

また、今年度の研究において、地域づくりを「外部者の変容」、「ESD」、「関係性」の視座から明らかにしていく上で、社会学者の鶴見和子が提唱した内発的発展論が今後の研究の理論的基盤になりうるということが分かった。今後は、鶴見の研究に焦点を当てて掘り下げていきたい。また、各地の地域づくりに携わる外部者へのインタビュー調査にも、本格的に取り組んでいきたい。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

「地域づくりにおける「当事者性」:「介入」と「よりそい」をめぐる自己の所在」、
「環境と対話」研究会、京都 GACCOH、2018年1月13日